

評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 31 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0571213958号
法人名	社会福祉法人 こまくさ苑
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 田沢の家
所在地	仙北市田沢湖生保内字上清水698 (電話) 0187-58-0112
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成21年3月4日

【情報提供票より】 (平成21年2月16日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 15 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 (常勤 7 人 非常勤 常勤換算 7 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	□有()円 □無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	□有()円	有りの場合 償却の有無	□有 / □無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	2 名
年齢	平均 86 歳	最低 79 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	仙北市立田沢湖病院、くぼた歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

「笑顔」「真心」「見守り」「気配り」の理念に基づき、利用者の話を傾聴することを方針とし、自己評価などを通じてケアに対する職員の考え方を統一している。事業所は自然豊かな田園地帯の中にあり、周囲に民家がないため静かで、季節の移り変わりが美しく空気が澄んでおり、穏やかに生活できる環境にある。また、母体老人保健施設が隣接しており、行事や避難訓練の合同開催や法人職員による事務作業の協力など、効率的な連携により事業所の負担を軽減し、それにより利用者へのケアの充実を図っている。さらには、母体施設の医師や看護師、栄養士による指導・助言が得られ、医療の連携体制が充実しているため、利用者の適切な健康管理、栄養管理を可能にしている。なお、現在の職員体制7名に新たに2名を増員し、体制強化を図りながら利用者への関わりを充実させ、職員とサービスの質の向上に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員間の情報共有を徹底するため、全職員が集まりやすい時間帯で毎月2回、午後5時からのミーティングとし、介護計画への反映を含めて意見交換している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で意見交換しながら自己評価を行い、その課程で評価の意義や目的を理解し、職員一人ひとりのケアに対する考え方について共通認識を図っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を2か月毎に開催し、運営状況を報告して積極的に意見を求めている。会議では、インフルエンザやノロウイルス等の感染症対策について要望があり、予防接種や消毒の徹底など具体的な対応につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置や日ごろの関わりなどで家族の意見や要望の把握に努めており、職員を通じて利用者の不満や要望などがあれば速やかに対応し、改善につなげている。なお、家族には利用者の生活状況を記した報告書のほか、「田沢の家便り」「ミニ広報」を発行して積極的な情報提供に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	周辺に民家がないため日常的な交流は難しいが、母体老人保健施設の行事を通じて交流しているほか、地域の方々がボランティアとして訪問してくれたり、野菜を届けてもらうなど交流している。今後は、事業所独自の行事開催や地域住民向けの認知症講座の開催など、地域に対して事業所の持つ機能を発揮し、少しずつ連携強化に努めてほしい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の掲げる運営理念である「笑顔」「真心」「見守り」「気配り」に基づき、常に利用者本位のサービスの提供を心がけている。			開設時からの法人理念として「笑顔」「真心」「見守り」「気配り」を掲げ、利用者に対しては笑顔で接し、よく話を聞くことを方針としている。	○	地域密着型サービスへ移行したことに伴い理念を見直し、事業所独自の理念として地域との関わりを盛り込み、職員間で共有することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を常に目のつくところに掲示し、ホーム内の諸会議においても全職員に徹底し、運営理念の実現に取り組んでいる。			事業所内に理念を掲示し、申し送りや夕方のミーティング時に時間をかけて話し合い、全職員が理念を共有しながら実践に努めている。		
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域にグループホームの機能を理解してもらえようホーム便りを発行。また、地域行事への参加や公共施設を利用したレクリエーションや行事を積極的に取り入れ、地域の方との交流を進めている。	○	地域行事に積極的に参加することで、地域の方々にグループホームの機能を理解してもらえよう、今後も可能な限り地域行事に参加するようにしていきたい。			
2. 地域との支えあい								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	ホーム菜園の管理、ホーム近所のスーパーでの買い物などを通じて、近所の方々とコミュニケーションを図ることで、日常的なつきあいを持つようにしている。					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在は、地域行事だけに参加できている。	○	これからは地域行事だけでなく、自治会、老人クラブ等との交流も深めていくように計画していきたい。	○	地域の方からは畑づくりや野菜提供などで協力を得ているほか、母体老人保健施設の行事を通じて地域の方々と交流を図っている。また、利用者の顔見知りの方が地元ボランティアグループの一員として活動しているため、訪問時には交流する時間を設けている。	周辺に民家がないため日常的な交流は難しいが、事業所独自の行事開催や地域向けの認知症講座の開催など、地域の方々から事業所に来てもらうための企画を工夫してほしい。
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム広報にワンポイント介護講座を掲載し、私たちができる範囲での介護情報を提供するようにしている。(例：第1回は隣接する老健に勤務する言語聴覚士による口腔ケア講座を掲載しました。)その他、ボランティアや研修の受入を行っている。	○	今後も広報を有効活用し、継続して介護情報を提供していきたい。また、ボランティアや研修を積極的に受入していきたい。			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価、介護サービス情報公表制度を実施する意義を理解し、評価後は改善を要すると判断した事項については速やかにスタッフミーティングを開催し改善策を検討、改善に向けて取り組んでいくように努めている			全職員で意見交換しながら自己評価を行い、評価を通じて意義や目的を理解し、ケアに対する職員間の共通認識を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議後は、スタッフミーティングにおいて、会議の報告をし、必要に応じて業務改善を行っている。			2か月毎に開催し、事業所の運営状況等について報告のうえ意見を求めている。 会議ではインフルエンザやノロウイルス等感染症対策への要望があり、予防注射や消毒等に対応し取り組みに反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	仙北市包括支援センター及び関連する入居者の属する福祉事務所との連携もとれている。また、地域での関連事業所との連絡会や意見交換、勉強会には積極的に参加している。			ケアマネジャーが毎月地域包括支援センターを訪問して情報収集に努めており、行政福祉課は運営推進会議の重要性を理解して毎回出席している。	○	運営推進会議において行政との連携について検討し、今後の具体的な関わり方について模索してほしい。
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修に参加し、理解をしているが、現在は活用するに及んでいない。	○	職員全体への権利擁護に関する制度の理解を深めるよう、職員間の勉強会を開催したい。	/		
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より利用者への接し方について職員間で注意喚起を促している。また、職員へ虐待防止に関する資料を配布し、理解と防止に努めるようにしている。	○	高齢者虐待防止に関する勉強会や研修会に参加し、理解と防止に努めるようにしていきたい。	/		
4. 理念を実践するための体制								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、家族へ重要事項を説明し、質問を受けようとしている。また、利用者も交えてホーム内の決まりごとや設備についての説明を行うようにしている。後に疑問点があった場合は、その都度、電話などで対応している。	○	退所後の相談・助言も介護支援専門員を通じて行っている。	/		
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設けている。また、苦情受付に関する文書、申出先を記したものをホーム内に掲示している。利用者から意見、不満、苦情があった場合は、管理者に報告、早急に対応するようにしている。			/		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求書送付に合わせ、利用者個別の行事スナップ等を入れた近況報告をするようにしている。また、定期的にお小遣い等の出納状況を確認してもらうようにしている。また、職員の異動等も広報に掲載し、お知らせしている。			家族には毎月の請求書と併せて利用者一人ひとりの生活状況を写真付きで報告しているほか、緊急時には電話で連絡している。 また、「田沢の家便り」を年4回発行して行事など事業所の状況を知らせ、合間に「ミニ広報」も発行して家族への情報提供に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時随時受け、ご家族の意向に合わせたサービスの提供ができるよう、記録、ミーティング開催にて対応している。			意見箱を設置して意見や苦情の把握に努め、普段の関わりから家族が意見を述べやすい雰囲気づくりを心がけている。 また、職員を通しての要望があれば、ミーティングや申し送り事項に記入して早期解決を図り、職員間で共有している。	○	意見箱の置き場所の工夫や独自の意向調査など、利用者及び家族の潜在的な思いを把握できるよう積極的な工夫、働きかけを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、職員個々との話し合いをもっている。また、スタッフミーティングを通して、職員の意見や提案を聞き、必要に応じて運営者に要望を出している。また、毎月、法人が主催とする定例会においてもホームの現況報告している。					
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	スタッフミーティングにおいて、定期的な医療機関受診や、面会、相談の予約に合わせ、勤務時間の変更や、勤務日の調整をするように配慮している。					
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	突発的な離職の場合を除き、人事の異動については1～2週間の猶予期間を設けて異動を完了させるようにしている。それにより、引継ぎや利用者との関係においてもスムーズな交代ができています。			母体老人保健施設との異動時には、新任者と前任者が余裕をもって利用者のケアにあたり、馴染みの関係を築きながら、引継ぎを含めて利用者へ支障なく移行できるよう支援している。		
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTが基本となり、採用時からのフォローアップを含め、職員が交代で研修会に参加し、研修終了後は、スタッフミーティングを通して他職員へ伝達、情報の共有に努めている。また、隣接する老健の勉強会や研修会に積極的に参加するように促している。			必要に応じて外部研修に参加し、内部研修として法人研修を多く開催し、職員間の研鑽に努めている。 また、母体老人保健施設と人事交流を行い、他部署を体験することで職員の視野と知識を広げ、職員の資質向上を図っている。	○	外部・内部研修に関わらず組織としての研修方針を明確にし、さらに職員の目標などに応じて研修計画をたて、段階的にスキルアップできるよう体制づくりを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は当該地域の福祉事業所等の研修会等に積極的に参加し、同業者と交流する機会をもち、情報交換をしながら、自ホームのサービスの向上に取り入れていくようにしている。また、Off-JTについても同様に、他ホームとの情報交換から、得たものを積極的に取り入れていくようにしている。			圏域の連絡会には管理者が参加し、県連絡協議会には職員も参加して交流を図り、情報収集に努めている。 また、トイレ使用時のひざ掛けによる防寒対策とするなど、連絡協議会で得た情報を実践に生かしている。	○	事業所間のネットワークを活用し、今後は相互の事業所を見学したり、職員交流や意見交換会などを企画して、更なる向上につなげてほしい。
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフ間の相互理解と、ストレス解消のための親睦会の開催。休憩時間の談笑に努めている。また、効果的な休息や、休日への配慮に努めると共に、法人の職員で構成されるスポーツクラブへの加入（任意）も勧めている。					
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、勤務割表で勤務状況を確認すると共に、時折ホームを訪問し、声かけをしている。また、毎週管理日誌に目を通し、ホームの状況確認に努めている。	○	スタッフミーティングに参加し、スタッフの意見を直接聞くようにしていきたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に顔合わせ、面談を重ね、顔なじみの関係を作り出している。随時、本人の意思確認を行い、話しやすい雰囲気を作り、ゆっくりと聞く体制を持つようにしている。					
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設見学を行っていただく等行い、その機会ごとに面談を設け、話し合いさせていただいている。管理者、ケアマネと面談を行い、意向の確認。話す、聴く、回数を増やしている。					
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何に困っているのか、どのようにしていきたいのか、意向に合わせ、ホームの条件とのすり合わせや他サービスの利用方法など話合いの場を設けている。					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人、家族、ホーム見学を希望により行っている。また、ホームでの生活状況の説明や行事内容等の説明を入所前に行っている。				事前に家族とともに事業所を訪問してもらい、事業所の雰囲気や環境を体感して、他利用者及び職員と関りながら利用につなげている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で衣食住を共にする者とし、仕事を一緒に行う。趣味や休息を一緒に行うなどしながら、「共に労い、喜ぶ」を行っている。				職員が笹餅やだまこ餅づくり、餅のつき方を利用者から教えてもらうなど、1年を通じて様々な場面で一緒に楽しんでいる。 また、同じ事柄でも出身地によってやり方が異なるなど、様々な発見があり利用者の理解にもつながっている。	
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況をお便りにしたり、面会時、行事等、随時報告、相談、助言をいただきながら対応を行っている。 また、行事や外出時の援助をいただけるよう呼びかけている。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の意向や日々の生活状態について話しながら、面会や外出、外泊の機会を設けるなど、対応している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時に利用していた行き慣れた美容院や外出先での顔馴染みの方々との触れ合う時間を大切に、ゆっくりと会話できるよう心掛けている。個別対応にて住み慣れた住宅周りへの外出や用足しなどを行っている。					
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員の同席により、和が保たれるよう配慮するようにしている。廊下にソファや椅子を配置し、いつでも利用・会話できるようにしている。					
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでも相談に応じる旨説明。また、本人の状態について等、施設側から連絡等とるようにしている。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
1. 一人ひとりの把握								
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さん一人ひとりとのコミュニケーションを図る為、会話時間を多く持つようにしている。				介護方針の一環として「利用者の話をよく聞く」ことを実践し、様々な場面で利用者の思いを感じ取ることができるよう時間をかけて意向の把握に努めている。	
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しながら、家族、前施設からの情報収集、本人から会話の中から導き出している。					
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の体調を確認した上で、利用者中心の活動の場をつくる。					
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者さん一人ひとりに、施設での役割を持っていただく。担当医、薬剤師、隣接する老健の看護師、PT、STなどに相談、助言を得ている。				日頃から母体老人保健施設と交流しているため、施設の理学療法士や言語聴覚士からの助言をアセスメントに生かし、職員の気づきや家族の意向を踏まえて職員間で話し合いながら介護計画を作成している。	
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化時、スタッフを相談し、家族の意向を聞きながら計画を作成している。				6か月毎の見直しを基本としているが、モニタリングを兼ねて日々の振り返りを大切にしており、職員の気づきなどから必要に応じて見直ししている。	

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、朝・夕のミーティングを基に、利用者の状態を見ながら、見直しを行う。					
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接する老健のレクリエーション、地域行事等に参加している。				母体老人保健施設が隣接している利点を生かし、法人職員が事務作業を協力してくれるため職員の負担軽減になっている。 また、施設に医師や看護師がいるため医療との連携体制があり、家族への通院も支援している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方々との園芸、農作業の実施。地域の保育園・幼稚園や小学校の学習発表会などの見学。					
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他事業者、ケアマネジャーと、常に連絡を取るようになっている。					
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	常に包括支援センターと連絡を密にとっている。					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	スタッフが受診へ同行する際には、近況を口頭で担当医に伝えるようにし、適切な助言や医療を受けられるように配慮している。また、家族対応で受診する際は、日々の状態、現在の状態を口頭で伝えるとともに、必要に応じて担当医あてに書面で状態報告をするようにしている。				地域の内科医・歯科医が協力医となり健康相談しているほか、母体老人保健施設の医師や看護師からも助言を得ている。 また、行政の健康診断には家族が対応し、健診後のフォローはそれぞれのかかりつけ医で対応している。	
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医への受診が必要な際には職員が付き添い、担当医に相談するようになっている。					
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接する老健の看護師に相談、助言を得ることができるよう協力体制をとっている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後、面会を通じて利用者さん、家族、医療機関の看護師（あるいはケースワーカーを通して）から現況を確認し、入院の期間や退院後について、家族の意向を聞きながら、意向に添うように行うようにしている。						
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、終末期ケアは行っていない。	○	現在終末期ケアまで行っていないが、今後、家族が終末期ケアを希望することも考えられることなので、スタッフやかかりつけ医療機関、隣接する老健と連携し、ホームの終末期ケアの方針を検討していく。	現在は母体老人保健施設と連携し、終末期には入院する方向で対応している。 なお、現在はターミナルケアの希望はないため、利用者及び家族の希望に沿う方法で支援している。	○	利用者及び家族が看取りを望むことを想定し、今後の検討課題として認識しているため、事業所としての方針を明確にし、職員間で共通認識を図ることが望まれる。	
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	これまで終末期の利用者の受入もあったが、ホームとしての限界についての見極めができていなかった。	○	スタッフミーティングなどを通して、ホームでの対応の限界について話し合い、ホーム対応の限界を超える場合については、かかりつけ医へ速やかに対応してもらえるように連携を深めるようにしていきたい。				
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設へ移ってからも、面会に行くなどかわりをもつことで、住み替えによるダメージを防ぐようにしている。						
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援									
1. その人らしい暮らしの支援									
(1)一人ひとりの尊重									
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの個性を理解し、誇りやプライバシーを損ねるような言動のないよう対応に注意している。 また、記録に関しても、一人ひとりの人格に配慮した記述をするように注意を促している。				排泄時には他利用者に配慮した声かけとし、入浴時には必要に応じて一人での入浴を支援し、食事の号令を最年長者に頼むなど、利用者の思いや誇りを大切にしている。 また、個人情報保護に関する同意を得ており、書類関係は事務所内の棚に施錠管理して情報管理に努めている。		
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個別でのかかわりを大切にし、ゆっくりと自分の気持ちを表現できるよう、利用者ペースの会話を心がけ、都度対応できるような体制をとっている。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外に出たがる利用者さんがおり、そうした場合は、早めに散歩や買物へ行くよう時間を調整するようにしている。 また、入浴を拒否した場合など無理に入浴させず、時間を置いて声かけしたりするように利用者のペースを乱さないように配慮している。				食事時間や入浴、外出など利用者の生活リズムに応じて支援している。 また、職員は業務のタイミングに合わせて利用者のお話を遮ることなく、職員側のペース主導にならないよう心がけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援									
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの理美容院へ行けるよう、予約を入れたり、衣類の洗濯については、大切な衣類はクリーニングに出すように配慮している。 衣類や化粧品の購入に関しては、家族の協力を得るようにしているが、家族の協力を得られない場合は、外出した際に購入できるようにしている。						
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意欲や興味を大切にし、声かけを行い、食事の準備や片づけを共に行っている。 利用者の好みや食事形態に合わせ、一緒に献立を作成、調理や味付けを行っている。				献立は職員が考えるが、その他にも利用者の希望に沿って品数を増やすなど柔軟に対応している。 また、畑で収穫した野菜を使い、調理の得意な方と一緒に作り、食べるなど、楽しい食事の雰囲気づくりに努めている。		
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	季節を感じる物を頂いたり、行事食等を取り入れている。また、ホーム菜園で採れた新鮮な野菜を使ったり、利用者と一緒に漬けた漬物をいただいたりしている。 希望時には個別のおやつや飲み物を購入し、食べていただくようにしている。						
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	個々の排泄状況を記録し、時間でのさりげない誘導や行動パターンからの誘導にて失禁の軽減を図り、失禁時には不快のないよう対応を行っている。						
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前に血圧、体温測定、本人の意思確認を行い入浴していただくよう心掛けている。 入浴の順番等、利用者間で都度話し合いができる余裕を持ちながら行っている。				週2回入浴を基本としているが、利用者の希望に合わせた支援を心がけ、同性介助に関しても意思確認のうえ対応している。 また、入浴を拒む場合には、家族と一緒に入ってもらったり、温泉に出かけるなど工夫しながら入浴を促している。		
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の生活リズムの調整や眠れない訴え時の対応を個々に合わせて寄り添うように行っている。 不眠の訴えが続くようであれば、かかりつけ医へ相談に行くようにしている。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援									
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や職歴を活かした活動が、個別にできるよう支援している。 隣接する老健との行き来、畑作業、食事、掃除など本人も他者も喜び合えるようなことを行っている。				100歳の方には食事の号令をお願いし、だまこ餅や笹餅、ずんだ餅、干し餅づくりの得意な方には指導してもらうなど、利用者が経験や特性に応じて役割を担っている。 また、レクリエーションを兼ねてぬり絵やちぎり絵を行ったり、外食や温泉に出かけてリフレッシュしている。		
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人持ちが多額になり過ぎないように配慮を行いながら、希望や力量に応じて金銭管理を行っている。 食材の買い出し時や外出時に一緒に行動し、買物ができるよう支援している						
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設周辺の散歩等、希望の時間や天気に合わせて、外出できるようにしている。				周辺に民家等がないため、事業所の周りを散歩したり、天気の良い日にはショッピングセンターへの買い物に出かけている。 また、季節によって花見に出かけているほか、周辺観光地を訪れて季節を感じられるよう支援している。		
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	公共施設を利用した日帰り入浴へ出かけたり、季節を感じ、楽しむため観桜会や紅葉狩りへ出かけたり、積極的に外出する機会をつくるようにしている。 また、家族との外出、外泊は制限無く行えるよう支援している。						
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話はいつでも使えるようにしている。 電話での取次ぎも事務所の電話を使っただけよう配慮している。 手紙でも随時取次ぎを行っている。						
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	談話コーナー等の空間の活用や居室訪問できるよう配慮している。 また、相談室の開放もしている。						
(4) 安心と安全を支える支援									
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	福祉用具等の工夫をすることで、拘束の無いケアを心掛けている。						

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は玄関の施錠をしておらず、出入りがあればセンサーで対応。利用者の行動、特性を理解し、状況に応じて見守り対応を行っている。			玄関にセンサーを設置し、施錠せずに職員の見守りを徹底しており、外出時には職員が付き添っている。 また、周辺に民家がないため、母体老人保健施設の職員による見守り体制があり、最寄りの消防署にも協力を依頼している。		
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が常に見守りや音の聞こえる所にいるようにしている。 個別に危険のある利用者に対しては、利用者の所在を職員間で情報伝達するようにしている。					
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	見守りや個別にセンサーでの対応を行い、制限を少なくするよう心掛けている。 共有スペースの危険物については、職員が側にいないことが多い時間帯は施錠をするようにしている。					
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	見守り、職員間の情報伝達、センサー使用にて対応している。 ヒヤリハットでの状況報告により、早めの対応策の検討を行っている。					
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	2年に一度、ホームにおいて、所轄の消防署に依頼し、救急救命講習を受講するようにしている。					
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、地震を想定し、年2回の避難訓練を実施しているが、これまで隣接する老健の避難訓練と合同で行っているため、次年度からはホーム単独で避難訓練を実施するように計画している。	○	ホーム単独での避難訓練を年1回実施するように計画をしていく。	年2回の防災訓練を母体老人保健施設と合同で実施しており、緊急災害時における連携体制を確保している。 また、消防署が近いため、緊急時には即時対応できるよう協力が得られている。	○	夜間や地震を想定した訓練のほか、事業所単独での訓練実施など、今後起こりうる災害等に備えるため、母体施設及び事業所職員の役割についても明らかにすることが望まれる。
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	これまでも、歩行不安定により転倒をする利用者もおり、対応策を検討し、センサー等の設置して見守りも強化しているが、転倒回避のために抑制することはしたくないので、多少にかかわらず、起こり得るリスクについて、早期に家族へ説明をし理解をしてもらうように努めている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の検温と、排泄の確認、顔色や食事摂取量、会話による身体状態の確認において、変化や異変への早期発見に努めるようにし、気になることは早期に他職員と情報を共有し対応を検討するようにしている。					
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者個々の内服薬の種類と効果、副作用、用法、用量を理解し、確実に内服管理できるように、職員2人で服薬支援をすること。また、利用者の状態によって、処方の内容について、主治医と相談をするなど、利用者の症状の把握に努めるようにしている。					
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘で医療機関から処方のある利用者には、排便のチェックを確実に実施することと、確実な服薬のチェック、食事の中で食物繊維の摂取や、レクレーションで身体を動かすようにすることで腸の活動を促進するように工夫している。					
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の清潔保持の為、毎食後はみがき、うがいを促している。また、隣接する老健のSTから、職員へ、利用者個別の口腔ケアの相談や技術の向上を目指したアドバイスもいただくようにしている。					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の摂取量や、栄養状態を食事量チェックや体重測定を通じて観察、記録し、食事のバランスや量の調整をする。				観察日誌に水分摂取量の記載欄を設け、利用者一人ひとりの摂取状況の把握に努めている。 また、栄養バランスが偏らないよう母体老人保健施設の管理栄養士から助言を得ながら献立に反映させている。	
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策については、法人の規程にある感染対策に順じて、ホームでもマニュアル化している。感染対策は流行期に入る前より、時期をみて開始、保健所等で発信する情報を基に判断している。インフルエンザ、ノロウイルス共に、手洗い、うがいの励行と、面会や差入れの制限などを設けている。					
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮食材の購入、食材の洗浄を行っている。食器乾燥機（除菌可）を使用している。調理者、職員、利用者共に手洗いやエプロンの交換などを行い気をつけている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1)居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にはプランターを置き、花を植えたり、季節の感を出せるような工夫をしている。またホーム横にホーム菜園用の畑を用意し、近隣の人たちからも野菜の生育にアドバイスをいただいたりすることがある。					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関への通路にはソファを用意し、利用者の憩いの場所となっている。また、廊下にはホーム行事で撮影した写真を飾ったり、食堂には利用者が色塗したカレンダーや当番表などを掲示している。また、食堂横にテラスがあり、ホーム菜園の様子を観察したり、ホーム菜園で収穫したものを置いて活用している。			共有空間には生け花やちぎり絵、お雛様などを飾り季節感を演出し、畳スペースの休憩室や通路にソファも確保している。 また、自然採光を二重カーテンで調節し、エアコンによる冷暖房も完備して快適な生活空間づくりに努めている。	○	畳の休憩室を有効に活用するため、例えば冬期にコタツを置いて利用者が集うようにするなど、運営推進会議にも提案しながら取り組みを工夫してほしい。
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関へ向かう通路のソファは利用者の憩いの場所となっている。また、食堂以外に、談話コーナーにテレビを設置している。談話コーナーは畳になっているので、ゆっくり足を伸ばして休めるようにしている。					
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋にはベッドのみ用意しており、その他の家具については、各自が使い慣れた家具を持参するようにお願いしている。また、部屋の場所や採光など本人の要望することがあれば、それを考慮してお部屋を用意するようにしている。			居室には自宅から持参した家具などを置き、花や家族の写真、絵などを飾り、居心地よい居室空間づくりに努めている。	○	全体的にシンプルな生活空間であるため、今後、看取りの対応が可能になった場合には、家族とも話し合いながら生活感のある居室空間づくりを検討してほしい。
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各部屋にエアコンを設置し、湿度調整や温度調整が本人の希望やその日の体調等で変えられるようにしている。また、月に1度、機械で吸引・くん蒸をすることでお部屋のにおい取りをしている。					
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は幅を広めにし、手すりを設置している。玄関から段差を無くし、食堂までの動線を短くしている。また、各部屋の入口を広くし、車椅子の出入りもゆとりをもってできるようにしている。各室はトイレ、浴室を挟んでおり、各部屋とトイレ、浴室の動線も短く動きやすくしている。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できること、わかることの観察力を養い、職員間での共有を行い、利用者が自信を持って力を発揮できるよう声かけしたり対応している。時に職員が教わったりすることもある。					
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム菜園を造り、野菜を植えたり、プランターへ花を植えたり、テラスを活用し、ホーム菜園の生育観察や、気分転換を図るスペースとして活用している。					

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者の訴えに傾聴すること。訴えの実現と近い形での実現への努力を行っている。
- ・家族とのつながりが(利用者)と離れないよう心掛けている。
- ・利用者本位での生活の場を提供し、笑って過ごせるよう、安心して暮らせるようにしている。
- ・外出など、家族が遠方で協力が得られない利用者もいるため、月1回程度の外出(日帰り入浴やドライブ、買物など)の機会をつくるようにしている。